

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 6月 26日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	マリンヒルズうつみ 広島県
評価調査員の氏名	氏名 平岡 朋加 氏名 寺岡 信香
事業所側対応者	職名 総括責任者・管理者・リーダー 氏名 倉石隆明・西村倫絵・服部哲也 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム[マリンヒルズうつみ]

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503239
法人名	有限会社 ユー・アンド・ミー
事業所名	グループホーム マリンヒルズうつみ
所在地	福山市内海町口1966-1 (電話) 084-980-9345
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 21 年 6 月 26 日

【情報提供票より】(平成21年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 8 人 非常勤 12 人 常勤換算 13.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (八店一時立白 わ)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.5 歳	最低 60 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福山友愛病院 多田医院 木下メディカルクリニック 黒瀬デンタルクリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日平成 21 年 7 月 16 日

ディレームから海が一望できる環境を有した「マリンヒルズうつみ」は、避暑地の趣を有し開放的で穏やかな時を過ごすには最適の場所である。居室は明るく清潔に保たれ、食材には皆で育てた野菜・貝堀で採った貝等が使われていて、職員の利用者に対する思いが感じ取れる。利用者は、事業所の理念である「普通の生活をして貰う」の言葉通り、一人ひとりが自然に暮らしていることがうかがえる。職員の育成については、研修内容等から運営者の前向きな姿勢が伝わってくる。更に看護師による健康管理や、かかりつけ医との連携等、医療面の体制も充実して安心して普通の生活が送れる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善課題は真摯に受け止め、取り組まれていた。日頃の支援の中で反省材料として活用されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員、評価の意義・目的は理解されていて、自己評価の作成は職員の意見を基に管理者が作成されている。評価の結果は日頃のサービスの質の向上に反映させている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族会会長・自治会長・民生委員や市担当者参加により、定期的で開催されている。事業所の現状報告や、意見交換が行われ、出された意見については日頃のサービスに反映させている。又評価結果の報告もされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3か月毎の家族会・運営推進会議・家族訪問時に多くの意見が出される。出された意見は職員間で共有し、サービスの質の向上に結び付ける取り組みがなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、利用者と共に地域行事への積極的参加や清掃活動等を通して地域住民との関係作りに取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりや連携を含んだ「普通の生活をさせていただく」という理念を掲げている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員はカンファレンスで理念を共有している。何か問題が生じた時等は、理念に立ち戻り支援内容に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と共に敬老会や保育園児の発表会の観覧・夏祭り・清掃活動等への参加を通して地域住民との交流に努めている。町内会への加入もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の意見を取り入れて管理者が作成している。外部評価は日頃のケアの反省材料として活用し、前回の改善点は真摯に改善に向け取り組まれている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会会長・自治会長・民生委員・行政担当者参加により定期的開催している。利用者や事業所の現状報告や意見交換を行い、出された意見はサービス向上に活かしている。又評価結果の報告もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とはメールでのやり取りによって情報収集をしたりして関わりを持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況報告・健康状態は定期的に、状態変化時は随時報告をしている。金銭の出納は領収書と共に送付し、職員異動については事業所発行の「便り」で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1度開催される家族会や運営推進会議で多くの意見が出される。出された意見は職員間で検討しサービス内容に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の異動はユニット間異動しかない。離職は最小限に抑えられているが、発生した時は利用者にダメージを与えないよう話し合いの機会を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月1回実施され、外部研修や資格取得についても職員の希望により参加を奨励している。外部研修の内容は報告書によって他の職員に伝達される。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域高齢者ケア会議に出席し、ネットワーク作りとサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心して利用開始が出来るよう「お試し体験」を設け、開始後の日々が穏やかに過ごせるよう、徐々に馴染める取り組みをしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日頃の会話から、物の名前や食材の使い方等学ぶ事が多い。又利用者と共に貝堀り・畑仕事等の協働作業を通して共に楽しみながら信頼関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者・家族の希望を把握して、日々の支援に反映するよう努めている。困難な方は表情や願い事を書かれた七夕の短冊等から希望を読み取っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の担当職員の話やアセスメントを基に、家族から出された意見も取り入れ、職員間で話し合い本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングをして評価をし、3か月に1回見直しを行っている。状態に変化が生じた時は其の都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じ、自宅帰省時の墓参りや病院の受診等柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望のかかりつけ医と、歯科医の定期的な往診がある。訪問看護ステーションの看護師による健康管理の支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は利用者・家族・主治医・と話し合い、方針を確認している。事業所独自の重度化した場合の指針マニュアルも作られていて契約時に説明をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの自尊心を尊重した言葉かけが行われている。プライバシー保護に関しては職員に誓約書を書いてもらうなど、十分な配慮がされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活に於いて利用者一人ひとりの希望が叶うよう、又普通の生活ができるような支援を実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は利用者の希望を取り入れ、畑で育てた野菜等を使っての献立になっている。食事の準備・片付けは出来る方はしてもらっている。介護・スペースの問題もあり職員と一緒に食事はしていない。		利用者にとってより普通の生活が送れるよう、職員と一緒に食事を摂られる支援を実現化されるよう期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は健康状態確認後、午前中入浴となっているが本人の希望やタイミングを見ながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の体操でリーダー役になったり、畑作業・洗濯物たたみ等自分の力を発揮できる場を設けるような取り組みをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの海での貝堀り・散歩・ドライブ等利用者の希望を取り入れた外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、居室のドアは日中は開放されている。利用者の安全を考慮し玄関に設置してあるセンサーは、利用者の状態により作動させている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域自治会長に災害時の協力をお願いしており、防火訓練の実施も行っている。又非常時の備蓄もある。今年の9月には消防署の指導による訓練を実施する予定になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量は記録し、常に把握されている。水分は定期的摂取を行い、摂取量不足の利用者には栄養補助食品によって調整している。病気の方への摂取量調整も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音・光もなく、隅々まで清潔に保たれている。居間から見える景観から季節が体感でき、壁にはイベント時の写真を飾ったりして、家庭的で穏やかなゆったり過ごせる場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は気になる匂いもなく、清潔で思い思いの部屋になっている。寝具もベッドや、畳の上に布団を敷いたりと利用者の希望に添い、心地良く過ごせるよう配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム マリンヒルズうつみ (ユニット1階)

評価年月日 2009年 6月 26日

記入年月日 2009年 6月 10日

記入者 代表/管理者 氏名 中崎 信子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普通の生活(地域との関わりや連携を含む)をしていただく。笑いと楽しみのある生活をしていただく。みんなの生活に歩調を合わせる。思い出を大切に、無理をしない。を理念とし、私たちはいつも心がけている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、わかりやすく表現し、スタッフルーム及びデイルームに表示している。	職員カンファレンス実施時等、定期的に確認を行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、家族会を通じて、理解してもらえよう取り組んでいる。また、家族来訪時にホーム内に掲示してある理念をみてもらったりしている。地域の人々に対しては、家族会の構成員である地区自治会長や民生委員の方に理念を理解してもらうことにより、浸透してきている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	散歩途中など気軽に声をかけあったりしている。また、地域の方が散歩途中にホーム庭で休憩したり、利用者や職員と話をしてたりと日常的なつきあいができている。地域のマラソン大会では庭を休憩場所とし、トイレも自由に使用できるよう開放している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーに地区自治会長が在籍していることもあり、敬老会での歌の披露など地域の行事に積極的に参加することができている。また、共に周辺道路を掃除したりし、積極的に交流を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者の農作業を手伝ったり、近隣道路の草刈をしたりしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価において不十分だった点、外部評価において指摘のあった点等事業所として、よりよいサービス提供を目指し改善に取り組んでいる。また、運営推進会議開催の際に家族等のメンバーに評価結果を報告している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの実際等についての報告や話し合いを行うと共に、評価への取り組み状況等について報告等を行い、運営推進会議で出た意見を職員カンファレンスの中で話し合い、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>常時、市町村担当者と行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度にはついては、ホーム入り口にパンフレットをおいて必要な方には持って帰ってもらい、契約時に必要な方には制度について説明をおこなっている。職員への説明や研修が少し不十分である。</p>		<p>職員カンファレンスの中で権利擁護に関する制度理解と活用について社会福祉士による説明会を行うことを計画している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員カンファレンスの中で認知症実践者研修修了者による高齢者虐待防止関連法の伝達研修を実施し、知識の周知を図っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、理解を得てもらった上で、契約書等の署名をしてもらっている。ケアマネはグループホーム入所困難者や一人暮らしの人等の次の入院、入所先を決め相談に乗り、定期的に後の支援をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見や苦情は記録し、問題点や改善策を利用者相談委員会の中で協議し、対応している。また、市町村の苦情窓口も重要事項説明書に記載し、ホーム玄関にも掲示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月ごとの介護計画の説明、同意と同時に、定期的に家族へ報告を行っている。また、家族会開催時や健康状態等変化時や家族訪問時には、随時報告を行っている。立て替え金の出納については、領収書のコピーと金銭利用状況をつき1回家族に郵送し報告している。職員の異動等については、月1回発行の便りで報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の協議の中及び家族訪問時に召集した家族からの意見等は真摯に受け止め、できる限り運営に反映させている。外部者へ表せるお機会については、契約時に重要事項説明書の中で、市町村の苦情窓口及び第三者（内海福祉在宅福祉センター）の苦情窓口を説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のカンファレンスの中で意見や提案を聞き、職員間で話し合った上で可能な限り実施している。また、職員から運営者及び管理者に口頭で言いにくい意見もあるので、スタッフルームに意見箱を設置し、意見を文書で聞く方法も実施している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>話し合いをし、勤務調整を行っているが、職員の確保が難しいときは本部より小規模多機能ホームの職員の派遣支援を受けている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は現在ほとんど実施していない。離職も必要最小限に抑える努力をしている。管理者の交代は開設以来実施していない。離職をする際、必要な利用者には伝え、離職する職員と利用者の方に話し合いをする機会を設けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、運営規定の中で毎年計画し、実施している。法人外研修については、管理者、職員とも随時受けさせてもらい、研修報告書を提出している。今年、介護福祉士1名、認知症ケア専門士1名資格取得し、現在、法人内に勤務しながら介護福祉士の資格取得を目指している職員が数名いる。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな管理者及び職員研修に参加させていただくことにより、地域の同業者と交流し、徐々に相互訪問が現実のものとなってきた。また、地域高齢者ケア会議に出席し、現在、ネットワークづくりとサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のみが休憩できるスペースが確保されている。また、管理者及び職員のための親睦会も年数回ある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者である社長も、月数回日勤帯及び夜勤帯の勤務及び職員カンファレンスへの参加をすることにより、管理者及び職員の努力や勤務状況を把握している。また、各自に向上心を持って働けるようなアドバイスをしたり、資格取得をすすめている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から困っていることや不安なことを相談時に聴ける場合は聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時または利用に至るまで随時、家族の困っていることや希望を聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。また、家族会の運営状況も相談時に説明し、利用後の体制も説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者判定基準チェックリストにより、より入居が必要な方を見極め、他のサービスによる支援の方が必要であると思われる方については他のサービスを紹介したり、医療機関(精神科等)受診をすすめたりという対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又は家族がサービスの利用に不安な場合は「お試し入所」というかたちで契約前に雰囲気を感じてもらうことも実施している。また、職員は利用者の生活歴や生活環境を確認し、その人にあった接し方をし、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、肩をもんだり、もんでもらったりする等共に時間を過ごし、信頼関係構築に努めている。また、職員が生まれていない時代の出来事を利用者から聴いたりし、喜怒哀楽を共にし、学ぶことは多々ある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント時は家族会を通じ、それぞれの家族に声をかけ、参加していただける家族には参加してもらい、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いていくことに努めている。また、家族訪問時には随時コミュニケーションをとっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の健康状態が変化した場合だけでなく、本人が良い状態(笑顔が増えた等)になったときも、家族来訪時や電話で報告しよい関係が続くよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中のドライブ時に各利用者の住んでいた地域に出かけ、その地域の場所や人を説明してもらう等し、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	月1回の職員カンファレンスや朝、夕の申し送り事項の中で、利用者同士の関係に変化があったことなどは職員間で確認している。また、朝の体操、イベントなど利用者同士が関わりあう場をつくり、支えあえるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関入院等による契約修了者は、医療機関を訪問した際に立ち寄りコミュニケーションをとったりし、つきあいを大切にしている。また、退院後再入所のケースも多々ある。		
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族に希望や意向を聴き、介護計画を立案している。また、日常のケアの中で随時、意向の把握に努めている。困難な場合は、手を握ったり、表情で確認したりしている。さらに、毎月1回のケアカンファレンスの中で、利用者の立場にたち検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の申し込みの際、アセスメントを行い、生活歴や生活環境やサービス利用の経過など家族及び本人に聞き、記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員担当利用者を決め、把握するよう努めている。また、心身の状態等は介護日誌に記録している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向や医師の指示を反映し、介護計画を作成している。また、職員カンファレンスの中で話し合ったケア方法等も介護計画に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回見直しを行っている。状態等変化が生じた場合にはその都度、話し合いをした上で、計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等時間帯別に個別の介護日誌に記入し、情報を共有しながら、介護計画の見直しにも活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅帰省時のライフサポートの利用等多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察署には利用者不明時の協力をお願いしている。消防署には消防計画の作成相談や点検報告など定期的に訪問し、アドバイスをいただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	金銭的理由や嚙下状態の悪化等の場合、地域の他のケアマネ等と話し合い、他のサービスを利用するほうが望ましいか等本人の意向も確認しながら協議し、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加を地域包括支援センターにもお願いし、出席してもらえる場合は出席してもらい意見交換等している。また、サブセンター職員とは定期的に協議する機会を設け、意見交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	やむを得ない場合を除き、入居時に主治医を変更してもらうことはない。現在7病院の往診がある。また、往診のない医院が主治医の場合やNS判断による受診必要時には受診支援をしている。さらに、訪問看護ステーションの看護師による健康管理も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の1つが認知症の専門医院である。ケアマネ、運営者が認知症実践者研修に参加、終了している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護職員、訪問看護ステーションの看護職員及び往診医療機関の看護職員と気軽に相談しながら、健康管理や医療活用の支援を行っている。訪問看護、医療記録をつくっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者等が入院時、定期的に医療機関に訪問し、本人への心のケアや病院関係者との情報交換をしている。また、家族が遠方等の理由で医療機関に行けない場合はタオルを交換に行ったり、衣類を持って行ったりという支援をしている。地域ケア会議で病院関係者の出席があり連携をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を契約時に書面及び口頭で説明し、重度化した場合は、本人、家族、主治医と協議し、方針を確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者については、特に慎重に職員カンファレンスを行うと共に、主治医の指示や看護職員の意見を取り入れ支援している。また、他のサービス利用の方が望ましいか等検討し、必要時には他のサービス事業者の職員に状態を確認してもらっている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境を変えることが望ましい場合等、本人及び家族、主治医等と十分な話し合いをした上で、住み替えを行っている。入居時のアナムネ、在宅での居室の様子をきいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護のマニュアルがあり、入社時に研修を実施している。自尊心を尊重したケアを行い、個人情報については、職員に契約書を書いてもらうと共に確実な取り扱いを行っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望を表せるような声かけをしたり、認知症の状態等によりその人に合わせた説明等を実施している。また、できるかぎり本人に納得して暮らしてもらえるよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩したい、ドライブに行きたい等できる限り各利用者の希望に添えるような支援をしている。また、理念にもあるようにそれぞれの利用者の歩調に合わせた支援をしている。さらに、朝食は決まった時間を設定せず思い思いの時間（6時以降）に食べてもらっている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介護側の都合による衣類は使用してもらわず、思い思いの衣類を着てもらっている。。理美容院への送迎は希望者には随時おこなっている。また、ホーム内散髪も行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理や配膳、下膳、茶碗ふき等は可能な方には職員と共に実施してもらっている。食事(昼、夕食)は現在、利用者と職員は別の時間帯になっている。イベント時(花見、バーベキュー等)は共に食事をし、食事の楽しみを共感している。	イベント時等共に食事をとる回数を増やしているが、食事介助必要者の人数やデイルームのスペース上、通常の食事を共にすることはできていない。職員及び利用者の協力を得て、実施に向け取り組みをすすめている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ、たばこ等は好みのものを状況に合わせて楽しんでもらっているが、お酒は病歴にアルコール依存症の方が数名在籍しているため、現在禁酒としている。たばこは職員が確認して渡している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>日中はできるだけ自立によるトイレでの排泄をするよう支援している。夜間は必要に応じ居室にポータブルトイレを設置し、おむつの使用をできるだけ減らし、気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望があればその都度健康状態確認後、入浴を楽しんでもらっている。また、貝堀り等で衣類が汚れたりしたときは、夜間等必要に応じた入浴支援をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>換気や空調にも配慮し、休息や安眠できるよう支援している。また、室内にできるだけ臭いが残らないように各職員が配慮（換気等）している。さらに、夜の就寝時間は自由にしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみやカラオケ、園芸活動、散歩、朝の体操、日光浴等それぞれの生活歴や力を活かしたことを実施してもらっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じて、可能な範囲でお金を所持してもらい買い物などで使えるよう支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩、日光浴、ドライブ、地域行事への参加等できるかぎり戸外へ出かけられるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の墓参りや受診したい病院等遠方であっても機会をつくり対応している。また、ドライブ希望があれば、できる限り対応している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者は電話を日常的に使っている。手紙については、字がうまく書けない人の代筆もおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は設定せず、家族がいつでも気軽に訪問できるようにしている。また、庭のテラスで共にコーヒーを飲んでもらったりし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の日誌に毎日身体拘束がないかチェックしている。また、身体拘束禁止委員会を設置し、禁止の対象となる行為がないか毎月チェックしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、日常は玄関は施錠せず自由に入居者も出入りしている。また、気候のいい時期は扉を開放している。夜間のみ防犯上玄関は施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員1人に対し3人の利用者を把握するようにしている。また、1日4回全利用者の所在確認をし記録している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に注意の必要な物品はスタッフルームで管理しているが、その人の状態に応じてはさみ等所持してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルをスタッフルーム内に掲示し、周知している。行方不明については、職員による手分け捜索経路も周知している。また、災害時の対応を学ぶため、全職員消防署による救急救命・心肺蘇生講習を受講。消火訓練も実施している。また、吸引器の使い方等毎月1回職員勉強会を実施し知識の周知を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	誤嚥したときの応急処置など管理者及び看護職員から職員へ実演研修を行い、周知した。事故発生時の対応マニュアルも整備している。消防署の協力を得て、救急救命講習を実施。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域及び他施設と連携し、万が一のための非難場所を確保している。ライフラインがストップした時の非常食は常備している。地域自治会に災害時の協力依頼をお願いし了承を得ている。		消防署に消防計画提出済。避難訓練は9月に実施予定である。
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性があること等契約時に家族に説明している。また、状態が変化したとき(嚥下状態低下等)など、家族の意向を確認し、対応を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝すべての利用者のバイタルチェックを行い、また、数値変動者等は1日3回のバイタルチェックをおこなっている。入浴時にもその都度皮膚の状態確認を行っている。体調の変化があった場合は、個別ファイル及び申し送り生活記録に記載し、確実な情報の共有を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況は個別ファイルに処方箋をファイルし、各職員が確認している。また、薬の内容が変わった場合は、申し送り生活記録に記載し朝、夕2回伝達を行い、服薬状況を各職員が確認している。薬が変わったことにより、利用者の症状が変化した場合は、適宜看護職員から主治医に連絡を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	確実な水分補給、散歩等の適度な運動、服薬による予防等を行い、便秘の予防に努めている。嚥下状態が悪い利用者及び水分摂取を拒否する利用者には、寒天ゼリーによる水分補給を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。また、入れ歯は、最低週1回は消毒し、清潔保持に努めている。さらに、口腔内に変化が生じた場合は、随時、歯科医院に連絡し、往診してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、利用者ごとに毎食後記録し、確認している。摂取量が不足している方にはエンシュア等を摂取してもらい、栄養摂取の支援をしている。水分については、定期時間及び有熱時等は随時行うと共に、希望者にはペットボトルにお茶を入れ、所持してもらい、1日最低1回はお茶を交換している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のため、インフルエンザ予防接種は、全職員、全利用者(家族確認後)に行っている。また、他の感染症を予防するため、玄関での手指のアルコール消毒、手洗い、うがいの励行、食器、ふきん等の塩素消毒を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具は、使用后塩素消毒を徹底している。また、調理に携わる職員及び利用者は、手洗いを確実にを行い、アルコール消毒後、作業している。食材は冷蔵庫及び食品庫に保管し、先入れ先出しを徹底すると共にできるだけ短期間で使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は庭を開放し、利用者、家族及び地域の人がいいつでもゆったりして過ごせるよう、イス、テーブルを置き、また常に草花をたくさん配置し、楽しめるようにしている。また、気候のいい時期は玄関を開放している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやダイニングセット等家庭的なものを使用し、ダイルム等共有スペースには常に季節の草花を飾るようにしている。また、共有の空間にイベント時の写真を飾ったりし、常に家庭的な雰囲気の中で利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭スペースのベンチやダイルムの畳コーナー等入居者がそれぞれゆったり過ごせる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及び家族にできるだけ使い慣れたものや好みのものを居室に入れてもらうことを勧めている。また、ベットではなく布団が好きな利用者には居室に畳を用意し、布団を敷いてもらうという配慮をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室及び共有スペースは日常的に換気に心がけている。また、共有スペースには空気清浄機を設置している。さらに、利用者の体調により、居室へ加湿器を設置するなどし、常に換気、空調にはきめ細かく対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口、廊下、浴室、トイレなど生活の主要箇所には手すりを設置し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはわかりやすく表札を設置し、トイレも大きな字で表示する等し、場所間違い防止の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りはテラスとしてゆったり過ごしたり、園芸活動ができるようになっている。ベランダは転倒予防のため、職員同行で過ごしてもらうようにしている。		ベランダでも利用者が思い思いの時間に楽しく過ごせるよう、段差の解消や手すりの設置に取り組んでいきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普通の生活、それぞれの利用者に思い思いの生活をしてもらうよう心がけている。また、自らが認知症になったときに暮らしたい生活空間を常に心がけ、あらゆる面で職員が気配りを行っている。「庭のテラスでコーヒーを飲みながら海を眺める」そんなゆとりのあるグループホームである。介護面では、常に利用者の心を尊重し、何気ない介護と自立した生活ができるよう気を配り、利用者や家族の立場にたって物事を考え、支援するようにしている。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム マリンヒルズうつみ (ユニット2階)

評価年月日 2009年 6月 26日

記入年月日 2009年 6月 9日

記入者 代表/管理者 氏名 中崎 信子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普通の生活(地域との関わりや連携を含む)をしていただく。笑いと楽しみのある生活をしていただく。みんなの生活に歩調を合わせる。思い出を大切に、無理をしない。を理念とし、私たちはいつも心がけている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、わかりやすく表現し、スタッフルーム及びデイルームに表示している。	職員カンファレンス実施時等、定期的に確認を行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、家族会を通じて、理解してもらえよう取り組んでいる。また、家族来訪時にホーム内に掲示してある理念をみてもらったりしている。地域の人々に対しては、家族会の構成員である地区自治会長や民生委員の方に理念を理解してもらうことにより、浸透してきている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	散歩途中など気軽に声をかけあったりしている。また、地域の方が散歩途中にホーム庭で休憩したり、利用者や職員と話をしてたりと日常的なつきあいができている。地域のマラソン大会では庭を休憩場所とし、トイレも自由に使用できるよう開放している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーに地区自治会長が在籍していることもあり、敬老会での歌の披露など地域の行事に積極的に参加することができている。また、共に周辺道路を掃除したりし、積極的に交流を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者の農作業を手伝ったり、近隣道路の草刈をしたりしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価において不十分だった点、外部評価において指摘のあった点等事業所として、よりよいサービス提供を目指し改善に取り組んでいる。また、運営推進会議開催の際に家族等のメンバーに評価結果を報告している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの実際等についての報告や話し合いを行うと共に、評価への取り組み状況等について報告等を行い、運営推進会議で出た意見を職員カンファレンスの中で話し合い、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>常時、市町村担当者と行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度にはついては、ホーム入り口にパンフレットをおいて必要な方には持って帰ってもらい、契約時に必要な方には制度について説明をおこなっている。職員への説明や研修が少し不十分である。</p>		<p>職員カンファレンスの中で権利擁護に関する制度理解と活用について社会福祉士による説明会を行うことを計画している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員カンファレンスの中で認知症実践者研修修了者による高齢者虐待防止関連法の伝達研修を実施し、知識の周知を図っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、理解を得てもらった上で、契約書等の署名をしてもらっている。ケアマネはグループホーム入所困難者や一人暮らしの人等の次の入院、入所先を決め相談に乗り、定期的に後の支援をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見や苦情は記録し、問題点や改善策を利用者相談委員会の中で協議し、対応している。また、市町村の苦情窓口も重要事項説明書に記載し、ホーム玄関にも掲示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月ごとの介護計画の説明、同意と同時に、定期的に家族へ報告を行っている。また、家族会開催時や健康状態等変化時や家族訪問時には、随時報告を行っている。立て替え金の出納については、領収書のコピーと金銭利用状況をつき1回家族に郵送し報告している。職員の異動等については、月1回発行の便りで報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の協議の中及び家族訪問時に召集した家族からの意見等は真摯に受け止め、できる限り運営に反映させている。外部者へ表せるお機会については、契約時に重要事項説明書の中で、市町村の苦情窓口及び第三者（内海福祉在宅福祉センター）の苦情窓口を説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のカンファレンスの中で意見や提案を聞き、職員間で話し合った上で可能な限り実施している。また、職員から運営者及び管理者に口頭で言いにくい意見もあるので、スタッフルームに意見箱を設置し、意見を文書で聞く方法も実施している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>話し合いをし、勤務調整を行っているが、職員の確保が難しいときは本部より小規模多機能ホームの職員の派遣支援を受けている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は現在ほとんど実施していない。離職も必要最小限に抑える努力をしている。管理者の交代は開設以来実施していない。離職をする際、必要な利用者には伝え、離職する職員と利用者間に話し合いをする機会を設けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、運営規定の中で毎年計画し、実施している。法人外研修については、管理者、職員とも随時受けさせてもらい、研修報告書を提出している。今年、介護福祉士1名、認知症ケア専門士1名資格取得し、現在、法人内に勤務しながら介護福祉士の資格取得を目指している職員が数名いる。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな管理者及び職員研修に参加させていただくことにより、地域の同業者と交流し、徐々に相互訪問が現実のものとなってきた。また、地域高齢者ケア会議に出席し、現在、ネットワークづくりとサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のみが休憩できるスペースが確保されている。また、管理者及び職員のための親睦会も年数回ある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者である社長も、月数回日勤帯及び夜勤帯の勤務及び職員カンファレンスへの参加をすることにより、管理者及び職員の努力や勤務状況を把握している。また、各自に向上心を持って働けるようなアドバイスをしたり、資格取得をすすめている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から困っていることや不安なことを相談時に聴ける場合は聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時または利用に至るまで随時、家族の困っていることや希望を聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。また、家族会の運営状況も相談時に説明し、利用後の体制も説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者判定基準チェックリストにより、より入居が必要な方を見極め、他のサービスによる支援の方が必要であると思われる方については他のサービスを紹介したり、医療機関(精神科等)受診をすすめたりという対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又は家族がサービスの利用に不安な場合は「お試し入所」というかたちで契約前に雰囲気を感じてもらうことも実施している。また、職員は利用者の生活歴や生活環境を確認し、その人にあった接し方をし、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、肩をもんだり、もんでもらったりする等共に時間を過ごし、信頼関係構築に努めている。また、職員が生まれていない時代の出来事を利用者から聴いたりし、喜怒哀楽を共にし、学ぶことは多々ある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント時は家族会を通じ、それぞれの家族に声をかけ、参加していただける家族には参加してもらい、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いていくことに努めている。また、家族訪問時には随時コミュニケーションをとっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の健康状態が変化した場合だけでなく、本人が良い状態(笑顔が増えた等)になったときも、家族来訪時や電話で報告しよい関係が続くよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中のドライブ時に各利用者の住んでいた地域に出かけ、その地域の場所や人を説明してもらう等し、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	月1回の職員カンファレンスや朝、夕の申し送り事項の中で、利用者同士の関係に変化があったことなどは職員間で確認している。また、朝の体操、イベントなど利用者同士が関わりあう場をつくり、支えあえるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関入院等による契約修了者は、医療機関を訪問した際に立ち寄りコミュニケーションをとったりし、つきあいを大切にしている。また、退院後再入所のケースも多々ある。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族に希望や意向を聴き、介護計画を立案している。また、日常のケアの中で随時、意向の把握に努めている。困難な場合は、手を握ったり、表情で確認したりしている。さらに、毎月1回のケアカンファレンスの中で、利用者の立場にたち検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の申し込みの際、アセスメントを行い、生活歴や生活環境やサービス利用の経過など家族及び本人に聞き、記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員担当利用者を決め、把握するよう努めている。また、心身の状態等は介護日誌に記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向や医師の指示を反映し、介護計画を作成している。また、職員カンファレンスの中で話し合ったケア方法等も介護計画に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回見直しを行っている。状態等変化が生じた場合にはその都度、話し合いをした上で、計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等時間帯別に個別の介護日誌に記入し、情報を共有しながら、介護計画の見直しにも活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅帰省時のライフサポートの利用等多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察署には利用者不明時の協力をお願いしている。消防署には消防計画の作成相談や点検報告など定期的に訪問し、アドバイスをいただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	金銭的理由や嚙下状態の悪化等の場合、地域の他のケアマネ等と話し合い、他のサービスを利用するほうが望ましいか等本人の意向も確認しながら協議し、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加を地域包括支援センターにもお願いし、出席してもらえる場合は出席してもらい意見交換等している。また、サブセンター職員とは定期的に協議する機会を設け、意見交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	やむを得ない場合を除き、入居時に主治医を変更してもらうことはない。現在7病院の往診がある。また、往診のない医院が主治医の場合やNS判断による受診必要時には受診支援をしている。さらに、訪問看護ステーションの看護師による健康管理も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の1つが認知症の専門医院である。ケアマネ、運営者が認知症実践者研修に参加、終了している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護職員、訪問看護ステーションの看護職員及び往診医療機関の看護職員と気軽に相談しながら、健康管理や医療活用の支援を行っている。訪問看護、医療記録をつくっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者等が入院時、定期的に医療機関に訪問し、本人への心のケアや病院関係者との情報交換をしている。また、家族が遠方等の理由で医療機関に行けない場合はタオルを交換に行ったり、衣類を持って行ったりという支援をしている。地域ケア会議で病院関係者の出席があり連携をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を契約時に書面及び口頭で説明し、重度化した場合は、本人、家族、主治医と協議し、方針を確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者については、特に慎重に職員カンファレンスを行うと共に、主治医の指示や看護職員の意見を取り入れ支援している。また、他のサービス利用の方が望ましいか等検討し、必要時には他のサービス事業者の職員に状態を確認してもらっている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境を変えることが望ましい場合等、本人及び家族、主治医等と十分な話し合いをした上で、住み替えを行っている。入居時のアナムネ、在宅での居室の様子をきいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保護のマニュアルがあり、入社時に研修を実施している。自尊心を尊重したケアを行い、個人情報については、職員に契約書を書いてもらうと共に確実な取り扱いを行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>希望を表せるような声かけをしたり、認知症の状態等によりその人に合わせた説明等を実施している。また、できるかぎり本人に納得して暮らしてもらえるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩したい、ドライブに行きたい等できる限り各利用者の希望に添えるような支援をしている。また、理念にもあるようにそれぞれの利用者の歩調に合わせた支援をしている。さらに、朝食は決まった時間を設定せず思い思いの時間（6時以降）に食べてもらっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>介護側の都合による衣類は使用してもらわず、思い思いの衣類を着てもらっている。。理美容院への送迎は希望者には随時おこなっている。また、ホーム内散髪も行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下処理や配膳、下膳、茶碗ふき等は可能な方には職員と共に実施してもらっている。食事(昼、夕食)は現在、利用者と職員は別の時間帯になっている。イベント時(花見、バーベキュー等)は共に食事をし、食事の楽しみを共感している。</p>	<p>イベント時等共に食事をとる回数を増やしているが、食事介助必要者の人数やデイルームのスペース上、通常の食事を共にすることはできていない。職員及び利用者の協力を得て、実施に向け取り組みをすすめている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物、おやつ、たばこ等は好みのものを状況に合わせて楽しんでもらっているが、お酒は病歴にアルコール依存症の方が数名在籍しているため、現在禁酒としている。たばこは職員が確認して渡している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>日中はできるだけ自立によるトイレでの排泄をするよう支援している。夜間は必要に応じ居室にポータブルトイレを設置し、おむつの使用をできるだけ減らし、気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望があればその都度健康状態確認後、入浴を楽しんでもらっている。また、貝堀り等で衣類が汚れたりしたときは、夜間等必要に応じた入浴支援をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>換気や空調にも配慮し、休息や安眠できるよう支援している。また、室内にできるだけ臭いが残らないように各職員が配慮（換気等）している。さらに、夜の就寝時間は自由にしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみやカラオケ、園芸活動、散歩、朝の体操、日光浴等それぞれの生活歴や力を活かしたことを実施してもらっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じて、可能な範囲でお金を所持してもらい買い物などで使えるよう支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩、日光浴、ドライブ、地域行事への参加等できるかぎり戸外へ出かけられるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の墓参りや受診したい病院等遠方であっても機会をつくり対応している。また、ドライブ希望があれば、できる限り対応している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者は電話を日常的に使っている。手紙については、字がうまく書けない人の代筆もおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は設定せず、家族がいつでも気軽に訪問できるようにしている。また、庭のテラスで共にコーヒーを飲んでもらったりし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の日誌に毎日身体拘束がないかチェックしている。また、身体拘束禁止委員会を設置し、禁止の対象となる行為がないか毎月チェックしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、日常は玄関は施錠せず自由に入居者も出入りしている。また、気候のいい時期は扉を開放している。夜間のみ防犯上玄関は施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員1人に対し3人の利用者を把握するようにしている。また、1日4回全利用者の所在確認をし記録している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に注意の必要な物品はスタッフルームで管理しているが、その人の状態に応じてはさみ等所持してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルをスタッフルーム内に掲示し、周知している。行方不明については、職員による手分け捜索経路も周知している。また、災害時の対応を学ぶため、全職員消防署による救急救命・心肺蘇生講習を受講。消火訓練も実施している。また、吸引器の使い方等毎月1回職員勉強会を実施し知識の周知を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	誤嚥したときの応急処置など管理者及び看護職員から職員へ実演研修を行い、周知した。事故発生時の対応マニュアルも整備している。消防署の協力を得て、救急救命講習を実施。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域及び他施設と連携し、万が一のための非難場所を確保している。ライフラインがストップした時の非常食は常備している。地域自治会に災害時の協力依頼をお願いし了承を得ている。		消防署に消防計画提出済。避難訓練は9月に実施予定である。
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性があること等契約時に家族に説明している。また、状態が変化したとき(嚥下状態低下等)など、家族の意向を確認し、対応を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝すべての利用者のバイタルチェックを行い、また、数値変動者等は1日3回のバイタルチェックをおこなっている。入浴時にもその都度皮膚の状態確認を行っている。体調の変化があった場合は、個別ファイル及び申し送り生活記録に記載し、確実な情報の共有を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況は個別ファイルに処方箋をファイルし、各職員が確認している。また、薬の内容が変わった場合は、申し送り生活記録に記載し朝、夕2回伝達を行い、服薬状況を各職員が確認している。薬が変わったことにより、利用者の症状が変化した場合は、適宜看護職員から主治医に連絡を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	確実な水分補給、散歩等の適度な運動、服薬による予防等を行い、便秘の予防に努めている。嚥下状態が悪い利用者及び水分摂取を拒否する利用者には、寒天ゼリーによる水分補給を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。また、入れ歯は、最低週1回は消毒し、清潔保持に努めている。さらに、口腔内に変化が生じた場合は、随時、歯科医院に連絡し、往診してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、利用者ごとに毎食後記録し、確認している。摂取量が不足している方にはエンシュア等を摂取してもらい、栄養摂取の支援をしている。水分については、定期時間及び有熱時等は随時行うと共に、希望者にはペットボトルにお茶を入れ、所持してもらい、1日最低1回はお茶を交換している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のため、インフルエンザ予防接種は、全職員、全利用者(家族確認後)に行っている。また、他の感染症を予防するため、玄関での手指のアルコール消毒、手洗い、うがいの励行、食器、ふきん等の塩素消毒を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具は、使用后塩素消毒を徹底している。また、調理に携わる職員及び利用者は、手洗いを確実にを行い、アルコール消毒後、作業している。食材は冷蔵庫及び食品庫に保管し、先入れ先出しを徹底すると共にできるだけ短期間で使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は庭を開放し、利用者、家族及び地域の人がいつでもゆったりして過ごせるよう、イス、テーブルを置き、また常に草花をたくさん配置し、楽しめるようにしている。また、気候のいい時期は玄関を開放している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやダイニングセット等家庭的なものを使用し、ダイルーム等共有スペースには常に季節の草花を飾るようにしている。また、共有の空間にイベント時の写真を飾ったりし、常に家庭的な雰囲気の中で利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づく り 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭スペースのベンチやダイルームの畳コーナー等入居者がそれぞれゆったり過ごせる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及び家族にできるだけ使い慣れたものや好みのものを居室に入れてもらうことを勧めている。また、ベットではなく布団が好きな利用者には居室に畳を用意し、布団を敷いてもらうという配慮をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室及び共有スペースは日常的に換気に心がけている。また、共有スペースには空気清浄機を設置している。さらに、利用者の体調により、居室へ加湿器を設置するなどし、常に換気、空調にはきめ細かく対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口、廊下、浴室、トイレなど生活の主要箇所には手すりを設置し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはわかりやすく表札を設置し、トイレも大きな字で表示する等し、場所間違い防止の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りはテラスとしてゆったり過ごしたり、園芸活動ができるようになっている。ベランダは転倒予防のため、職員同行で過ごしてもらうようにしている。		ベランダでも利用者が思い思いの時間に楽しく過ごせるよう、段差の解消や手すりの設置に取り組んでいきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普通の生活、それぞれの利用者に思い思いの生活をしてもらうよう心がけている。また、自らが認知症になったときに暮らしたい生活空間を常に心がけ、あらゆる面で職員が気配りを行っている。「庭のテラスでコーヒーを飲みながら海を眺める」そんなゆとりのあるグループホームである。介護面では、常に利用者の心を尊重し、何気ない介護と自立した生活ができるよう気を配り、利用者や家族の立場にたって物事を考え、支援するようにしている。